

1 自己評価

(1) 結果

① 全体 「夢をもち 学び合う子」

<評価できる項目> (児童、保護者、職員のうち2つ以上が肯定的評価85%以上の項目)

○友達と一緒に勉強したり運動したりして、分かったことやできたことが増えている。

<課題となる項目> (児童、保護者、職員のうち1つ以上が否定的評価20%以上の項目)

●夢(これから〇〇をやってみたい、〇〇な人になりたい など)をもっている。

●入野小は、いじめがなく、楽しく安心して生活できる。

② 学びを深める子

<評価できる項目> (児童、保護者、職員のうち2つ以上が肯定的評価85%以上の項目)

○学級のみんで考えを出し合ったり、話し合ったりすると、勉強がよく分かる。

○学級の友達と、一緒に考えたり、励まし合って頑張ったりするのは、楽しい。

<課題となる項目> (児童、保護者、職員のうち1つ以上が否定的評価20%以上の項目)

●学習のめあてや自分の目標にむかって、進んで勉強や運動をしている。

●タブレットを使うと、自分の考えをまとめたり、友達の考えを知ったりするのに役立つ。

●「正しく読む」「正しく書く」「自分の考えを発表する」といったことが、どの学習でもできる。

③ 自他を思いやる子

<評価できる項目> (児童、保護者、職員のうち2つ以上が肯定的評価85%以上の項目)

○学級や学校がもっとよくなるように、自分の仕事をしたり、友達と活動したりしている。

<課題となる項目> (児童、保護者、職員のうち1つ以上が否定的評価20%以上の項目)

●自分で自分のことを「頑張っている」や「人の役に立っている」などとほめることができる。

●相手の気持ちを考えながら、友達の話の聞いたり、やさしく話したりしている。

●自分と友達の考えがちがうときは、話し合っ、よりよい方法を考えることができる。

●「おはよう」「はじめます」「ありがとう」など、いろいろな挨拶をしっかりとすることができる。

④ 健やかな体と心をつくる子

<評価できる項目> (児童、保護者、職員のうち2つ以上が肯定的評価85%以上の項目)

○「手洗い」「うがい」「給食をバランスよく食べる」など、健康に気を付けて生活している。

○けがをしないように、安全に気を付けて遊んだり、活動したりしている。

○「入野小のくらし」に書いてあるきまりを守って、落ち着いて生活している。

<課題となる項目> (児童、保護者、職員のうち1つ以上が否定的評価20%以上の項目)

●外に出て元気よく遊んだり、運動したりすることが好きだ。

●体育の授業では、自分の目標に向かって進んで練習したり、何回も挑戦したりしている。

⑤ 保護者の意見（主なもの）

- 地域の方やボランティアの方にたくさん支えていただいて、充実した教育活動が行われていると思います。そのことは、入野小ならではの良さだと思います。これからも可能な限り、地域の方やボランティアの方が入野小の教育活動に関わってくださるとありがたいです。
- 学習発表会などの行事を増やしてほしい。参観会では見られない姿が見られる。
- 自主学習を増やしていくという話があったが、自主学習に向かえるような教育を、どのようにしていくのか不安がある。タブレットの学習が難しい。遊んでいるように感じる。

(2) 考察（入野小の子供たちの「強み」と「弱み」）

<強み>

- あたたかい人間関係。助け合える仲間。
- 互いのことを理解しようとする優しさや思いやりがある。
- 素直で吸収力がある。

<弱み>

- 主体性が弱い。誰かが何とかしてくれる。
- 教師がいないところでトラブルが起きる。
- 進んで挨拶ができない。廊下歩行が悪い。

(3) 力を入れていきたいこと（R6の重点）

- ・子供を主体にしたあたたかい学級づくり。いじめやけんかのない安心できる学級。
→「いじめ0宣言」
月のめあてを「いじめ0」に関連した、あたたかい学級づくりにつながる項目に変更する。
いじめアンケートを定期的に行い、児童の様子に寄り添う。
- ・あいさつや言葉遣い・・・特別活動の充実（委員会活動）
→児童会活動の意義の再確認「自分たちの学校は自分たちでよくする」
「どの委員会に入ってどんな学校にしたいのか」思いをしっかりとって入る委員会を決める。
- ・授業改善・・・教職員の教材研究の時間の確保
→業務改善。日課の工夫。会議の精選。
- ・音楽発表会の開催
→ R5は参観会の中で「音楽的な発表」を行っていたが、R6は参観会とは別に「音楽発表会」を行う。
- ・家庭学習の充実
→ 家庭学習についての考え方は「入っ子No. 9」に掲載してある。自主的に学習できるようにするための取り組みは、様々な学年で少しずつ行っている。
<例>・今週1週間は家庭学習で何をやるか自分で計画しよう（4年）
・次のテストに向け、自分に必要な学習を考えて行おう（6年）
急に変わるということではなく、目的をはっきりさせながら、少しずつ子供たちの意識を高めていきたい。
また、タブレットを活用した家庭学習も、「まずは慣れる」段階から、より目的にあった内容になるよう、検討していく。

2 学校関係者評価

2月22日(木)に開催した学校関係者評価委員会(学校運営協議会)において、結果及び考察を委員に報告しました。その際、委員のみなさんから、次のような意見をいただきました。

- 「挨拶」の項目など、児童の評価と保護者、教職員の評価が大きく分かれているところがある。児童に保護者や教職員の評価は知らせているのか。児童がそれを知ることで、自分たちのことを客観的に評価でき、より積極的な活動につながるのではないか。
- こういったアンケートはなかなか難しい。親は自分の子供だけを見るし、教員は全体を見るので、どう考察すればよいか。
- 児童全体だとどうしてもならされてしまうので、せめて低・中・高学年くらいで結果が分かれば、また違う考えも出てくるのではないか。
- 「一緒に考えたり励まし合ったり」や「元気よく遊んだり運動したり」といった項目で「とてもそう思う」が60パーセントを超えているのは、大変素晴らしいことだと思う。
- 挨拶ができるようになるには本当に時間がかかる。コロナもあったし不審者の問題もある。教員もしっかり挨拶を頑張ってもらいたい。
- 「いじめがある」と答えた児童が25パーセントいる。そのことを知らなかった。地域や保護者に知らせることで、一緒になって考えてもらえるのではないか。学校だけの問題ではない。
- 保護者は「行事を増やしてほしい」といい、学校は「教材研究の時間の確保」という。どちらの気持ちもわかる。保護者は、子供の様子を見る機会を増やしてほしいと思っているので、学校は「いつでもどうぞ」というスタンスが大切ではないか。また、行事については、何のための行事か、何が大切かをしっかり考え、理解してもらえるように努める必要があるのではないか。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図ります。

- アンケートの結果を児童に知らせるという取り組みはぜひ行っていきたい。特別活動を充実させ主体性を育むためにも、大変効果的な取り組みだと考えます。
- アンケートの集計方法については、すぐに取り組めることなので、低・中・高学年くらいの分け方で集計していきたいと思います。学校の「強み」「弱み」の考察も、より深いものになるのではないかと考えます。
- いじめの評価だけでなく、児童の様々な様子を、これまで以上に分かりやすく発信していきたいと考えます。「学校だけで解決することではない。家庭・地域も一緒に」という御意見には大変勇気をいただきました。コミュニティ・スクールとの連携も大切にしていきたいと思います。来年度は回数も3回から4回に増やし、夏休みを利用して、教職員と委員の皆様がより深く理解し合ったりともに考えたりできる場を設定していきます。
- 業務改善についても一定の理解をいただきましたので、児童の成長を中心に据えながら「何が大切か」を常に考え、重点を絞った取り組みを、さらに進めていきたいと考えます。